

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】令和 3 年 3 月 11 日 (2021.3.11)

【公開番号】特開 2019-69020 (P2019-69020A)
 【公開日】令和 1 年 5 月 9 日 (2019.5.9)
 【年通号数】公開・登録公報 2019-017
 【出願番号】特願 2017-196804 (P2017-196804)
 【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 0 4 D

【手続補正書】

【提出日】令和 3 年 1 月 22 日 (2021.1.22)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

遊技を行う遊技機において、
 音を出力するための音出力手段と、
 遊技機の制御を行う制御手段と、
複数のチャンネルを有し、該複数のチャンネルの各々に設定される音データにより特定される演出音を前記音出力手段から出力させる制御を実行する音制御手段と、を備え、
前記制御手段は、前記音制御手段に複数種類のコマンドを送信可能であり、
複数種類のコマンドは、

複数のチャンネルの各々に設定する音データを指定するとともに、該音データが設定されるチャンネルの音量を指定する第 1 コマンドと、

複数のチャンネルの音量のみを指定する第 2 コマンドと、を含み、

前記制御手段は、前記音出力手段から特定音を出力させるときに、該特定音を特定する特定音データを設定することと該特定音データが設定されるチャンネルの音量を指定する第 1 コマンドを前記音制御手段に送信し、該第 1 コマンドとともに前記特定音データが設定されるチャンネルの音量を指定する第 2 コマンドを送信し、

前記音制御手段は、複数のチャンネルの各々の音量として N 種類の音量のいずれかを設定可能であり、

前記制御手段は、複数のチャンネルの各々の音量として N 種類よりも少ない M 種類の音量のいずれかを前記音制御手段に指定可能である、遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 7】

(A) 遊技を行う遊技機において、
音を出力するための音出力手段と、
遊技機の制御を行う制御手段と、
複数のチャンネルを有し、該複数のチャンネルの各々に設定される音データにより特定

される演出音を前記音出力手段から出力させる制御を実行する音制御手段と、を備え、
前記制御手段は、前記音制御手段に複数種類のコマンドを送信可能であり、
複数種類のコマンドは、

複数のチャンネルの各々に設定する音データを指定するとともに、該音データが設定
されるチャンネルの音量を指定する第 1 コマンドと、

複数のチャンネルの音量のみを指定する第 2 コマンドと、を含み、

前記制御手段は、前記音出力手段から特定音を出力させるときに、該特定音を特定する
特定音データを設定することと該特定音データが設定されるチャンネルの音量を指定する
第 1 コマンドを前記音制御手段に送信し、該第 1 コマンドとともに前記特定音データが設
定されるチャンネルの音量を指定する第 2 コマンドを送信し、

前記音制御手段は、複数のチャンネルの各々の音量として N 種類の音量のいずれかを設
定可能であり、

前記制御手段は、複数のチャンネルの各々の音量として N 種類よりも少ない M 種類の音
量のいずれかを前記音制御手段に指定可能である。

その他の遊技機は、

遊技を行う遊技機（例えば、遊技機 1）において、

音を出力するための音出力手段（例えば、スピーカ 53、54）と、

遊技機の制御を行う制御手段（例えば、サブ制御部 91）と、

前記制御手段（例えば、サブ制御部 91）から送信された情報（例えば、図 4 に示す第
1 コマンド（コマンド 1～5）および第 2 コマンド（コマンド 6～8））にもとづいて前
記音出力手段から音を出力する制御を実行する音制御手段（例えば、音声出力回路 94）
と、を備え、

前記制御手段は、

複数種類の音（例えば、BGM 1、BGM 2、BGM 3、予告音、セリフ）のうちいず
れの音を前記音出力手段から出力するかと前記音出力手段から出力する音の音量（例えば
、最大音量「255」）とを示す第 1 情報（例えば、図 4 に示す第 1 コマンド）と、前記
音出力手段から出力する音の音量（例えば、音量「255」、音量「100」、音量「0
」）のみを示す第 2 情報（例えば、図 4 に示す第 2 コマンド）とを前記音制御手段に送信
可能であり、

前記音出力手段から特定音（例えば、BGM 1、BGM 2、BGM 3、予告音、セリフ
のいずれか）を特定音量（例えば、音量「255」、音量「100」、音量「0」のいず
れか）で出力させるときに、前記特定音を出力することと一の音量とを示す第 1 情報を前
記音制御手段に送信した後に前記特定音量を示す第 2 情報を前記音制御手段に送信する（
例えば、図 5 の S b 2 および S b 3 の処理を行う部分）。

この構成によれば、用意するデータの量を少なくすることができる。